

# 城郭探訪

まちづくりと城の址

## 行田市 忍城

### 水攻めに耐えた難攻不落の城から 老中の城へ

ぎょうた  
行田市長(埼玉県)

こうだくにこ  
行田邦子



#### 埼玉県名発祥の地、行田

行田市は、埼玉県北部の利根川と荒川に挟まれた肥沃な平野に位置する面積67・49㎢の市です。市内には県名や郡名と同じ「埼玉」の地名があります。万葉集に出てくる「前玉」や「佐吉多万」の地名が埼玉郡名の由来とされ、それが明治4(1871)年に県名となったことから、本市は埼玉県名発祥の地とされています。

#### 戦国の動乱と忍城

忍城は、享徳の乱に始まる戦国の戦乱を背景にして、成田氏によって文明11(1479)年までに築城されたと考えられています。城が築かれた場所は一面の湿地帯で、永正6(1509)年にこの地を訪れた連歌師宗長は「水郷なり、館の四方沼水幾重ともなく葦の霜枯れ」と、沼地の中の城の様子を書き記しています。

天正18(1590)年、豊臣秀吉の命令に

より、石田三成が2万の軍勢で忍城を包囲しました。三成は城の周囲に長大な堤防を築き、周囲の河川から水を引き込み、水攻めを仕掛けようとしています。しかし、籠城した成田氏一族と家臣たちは、小田原城の開城後まで持ちこたえ、忍城は難攻不落の「浮き城」としてその名を轟かせました。

#### 老中の城と忍藩

江戸時代は譜代大名の居城となり、寛永10(1633)年に老中松平信綱、同16(1639)年に老中阿部忠秋が城主となります。以降、文政6(1823)年まで9代184年にわたり、阿部家の時代が続きます。阿部家の当主は忠秋から正允まで5代続けて江戸幕府の老中となり、これに松平信綱を加えると忍



文政年間忍城図

城主は6代続けて老中を勤めたこととなります。忍城は幕府政治を支える「老中の城」として、重要な役割を果たしました。元禄時代には、帯曲輪の築造や三階櫓と二階櫓二棟の建設などの大改修が行われ、10万石の大名の居城にふさわしい姿となりました。文政6年には阿部家が陸奥国白河へ移り、白河藩主久松平家が伊勢国桑名へ、桑名藩主奥平松平家が忍藩主となる三方領知替が行われました。これが縁となり、桑名市、白河市と本市は友好都市を締結しました。三方領知替による友好都市は全国唯一で、三市の間ではさまざまな分野で交流が続けられています。

## 全国からの来訪者を迎える城へ

明治6（1873）年の廃城令により忍城は廃城となり、建物は競売に掛けられ、跡地には公園や学校などが造られました。戦後も忍沼の一部が水城公園として市民の憩いの場となり、昭和63年には本丸と諏訪曲輪跡に郷土博物館と忍城御三階櫓が開館し、周囲も城郭をイメージした公園として整備されました。毎年11月には忍城時代まつりが開催され、武者行列や火縄銃演武などが行われています。

平成24年に忍城水攻めを題材にした映画



忍城御三階櫓

『のぼうの城』が公開されると、忍城の知名度は飛躍的に上がり、全国から多くの方が訪れるようになりました。近年では、御三階櫓のライトアップやプロジェクトエクシオンマッピングなどのイベントも開催しており、平成28年に認定された日本遺産「和装文化の足を支え続ける足袋蔵のまち行田」の構成文化財の一つになっています。今後も歴史ある忍城をまちづくりに生かし、市のさらなる発展につなげていきたいと考えておりますので、多くの方のご来城をお待ちしております。



夜空を彩る御三階櫓のプロジェクションマッピング

## 歴史探訪コラム 城と都市の でんせつ

江口知秀  
建設産業図書館 学芸員

### 甲斐姫

和田竜の小説『のぼうの城』の舞台となった忍城について、松浦静山が『甲子夜話』で語るに「忍城は堀殊に多し、因って居住の士城主の所へ出仕するには多く堀中を舟行して赴くとぞ」とある。常でも水攻めのシーンをほうふつとさせる様相だったのだろう。さて、小説や映画を見た方は『のぼうの城』の主人公・成田長親に心を寄せる甲斐姫を覚えておられると思う。美人だが、武刃者で戦う姫として描かれた。この甲斐姫について『行田史譚』には次のような話が書かれている。

豊臣秀吉の小田原征伐に対し、小田原城では籠城戦を決め込んだ。それに対し秀吉は、北条方の支城をしらみつぶしにし、小田原城を孤立させる策を採る。その一つが

忍城だった。

押し寄せる攻め手の大軍に対し、出陣した甲斐姫は臆することなく自ら采配を振るった。その勇姿に三宅惣内兵衛高繁という攻め手側の若武者が、「昔和田三郎義盛は木曾の巴を生け捕り、浅利與市義遠は、城の板額を虜にし、夫婦の契を為すと承る。それがしも大将を組み留めて宿の妻に賜るべし」と言って甲斐姫に近づいていった。

すると甲斐姫はにっこりと笑って、半弓を引き寄せ、狙いを少しも変わらずに高繁の咽喉を射抜いてしまった。高繁は真つ逆さまに馬から転げ落ち、忍城の兵たちはこれを見て、あっぱれ高繁殿見事に命を捨てられしと、大いに士気が上がったという。

まあ、この話がどこまで本当かは知らないが、忍城開城後の甲斐姫は豊臣秀吉に見初められ側室にされたという。